

O I B 試験要領

第一章 O I B 国語科試験要領

第一節 試験実施の目的

フランス国バカロレア試験の枠内で、フランスの学校教育において、日本の教育を受けた生徒を対象として、日本の国語を適切に表現し的確に理解する能力、伝え合う力、思考力、分析力、判断力、言語感覚、言語文化に対する関心及び日本の国語を尊重してその向上を図ることのできる資質を問うことを目的とする。

1. O I B 国語科試験は、具体的には次に示すような能力を評価する。

(1) 読むこと

- ア 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約したりすること。
- イ 文章を読んで、構成を確かめたり表現の特色をとらえたりすること。
- ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。
- エ 様々な文章を読んで、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりすること。

(2) 書くこと

- ア 相手や目的に応じて題材を選び、効果的な表現を考えて書くこと。
- イ 論理的な構成を工夫して、自分の考えを文章にまとめること。
- ウ 優れた表現に接してその条件を考え、自分の表現に役立てること。

(3) 話すこと・聞くこと

- ア 様々な問題について自分の考えをもち、筋道を立てて意見を述べること。
- イ 目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。
- ウ 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重して話し合うこと。

(4) 言語事項

- ア 目的や場に応じた話し方や言葉遣いなどが身に付いていること。
- イ 文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙が豊かであること。
- ウ 主な常用漢字の読みに慣れ、小学校学習指導要領国語に示されている学年別漢字配当表にある漢字が書けること。

第二節 試験範囲

1. 小説

夏日漱石『我が輩は猫である』（冒頭部：岩波文庫、1990年、7頁－24頁）

森鷗外『高瀬舟』

芥川龍之介『羅生門』

志賀直哉『城の崎にて』

川端康成『伊豆の踊子』

村上春樹『辺境近境』（所収、新潮文庫、1998年、271頁－292頁）

2. 評論

鈴木孝夫『相手依存の自己規定』

3. 古典

『枕草子』（第1段「春はあけぼの」）

『平家物語』（第1巻第1「祇園精舎」）

『今昔物語集』より「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人の語（今昔物語集 第二十九巻 第十八）」

第三節 試験施行規則

筆記試験 時期：（原則として）6月

試験時間：4時間

出題形式：2形式

①試験範囲の作品を1題提示して、それに関する設問数個及び関連するテーマで論述させる設問を最後に付け加える。

②試験範囲の作品を1題提示して、これをテーマにした小論文。

出題と解答：出題形式として示した2形式からそれぞれ1題ずつ示し、受験生がいずれか一方を選択して解答。

出題言語及び解答言語：日本語のみ。フランス語は一切用いない。

口頭試問 時期：（原則として）6月末～7月初め

試験時間：1人30分程度

試験形式：試験範囲の作品を渡し、20分間で準備させて入室、作品の要約とコメントをさせ、試験官からも質問する。

出題言語及び解答言語：日本語のみ。フランス語は一切用いない。